科目名	刑事政策Ａ　　Criminology A						
科目担当者	雨宮 敬博　　AMAMIYA Takahiro						
単位数	２	配当年次	３年	授業形態	講義	開講学期	前期
履修学部・学科［区分] 他学部他学科履修	法学部・法律学科［専門教育科目　専門科目］ 他学部他学科履修〇					ディプロマポリシーとの関連	(3)(4)
授業の概要	「刑事政策」（「犯罪学」・「刑事学」などの呼称も用いられる）で取り扱う内容はきわめて広範囲に及ぶ。今年度については、初回の授業の際に受講生と相談のうえ、どのような内容の授業をどのように進めていくか決したいと考えている。さしあたり「授業計画・内容」の欄にその広範囲な内容を大ざっぱに記しておく（これらをもってしても、全範囲が網羅されているわけではない）。 なお、本科目の受講生は刑法総論・各論、刑事訴訟法を履修済みという前提で授業を進めていく。						
授業の到達目標	①「人はなぜ犯罪を犯すのであろうか」、「犯罪を犯した人をどのように処遇すればよいのか」、「近年における少年非行の状況はどのようなものなのか」、「近年における高齢者犯罪の状況はどのようなものなのか」、「犯罪者を厳罰に処するとともに社会から排除することによってわれわれの安全や生活を守ることが必要だという主張に対しどのように考えるか」などについて、日本国憲法に基づき科学的知見をふまえつつ自分なりの意見を持てるようにする。						

授業計画・内容		
	1	オリエンテーション
	2	犯罪学の展開
	3	犯罪原因論（生物学的・心理学的要因）
	4	犯罪原因論（社会的要因）
	5	犯罪対策論（生命刑）
	6	犯罪対策論（自由刑・財産刑など）
	7	犯罪対策論（刑罰以外のサンクション）
	8	犯罪被害者
	9	青少年による犯罪と非行
	10	ホワイカラー犯罪
	11	交通犯罪
	12	薬物犯罪
	13	高齢者犯罪
	14	公務員犯罪
	15	まとめ

授業外学修 (事前学修)	ふだんから新聞等で犯罪や刑罰に関する記事を読んでおく。 刑法各論や刑事訴訟法を履修済みでない場合は、関連の深い箇所を自ら勉強しておく（事前に申し出ることにより、たとえば「次回は公務員犯罪を取り上げるので、収賄罪と職権濫用罪について勉強しておくこと」などと指示を受けることができる)。(毎回１時間程度)
授業外学修 (事後学修)	授業の際の指示に従い、犯罪白書や各種統計資料などを調べる（毎回３時間程度）

成績評価方法・評価比率・到達目標との対応	成績評価方法	評価比率	到達目標との対応
	定期試験	100%	①

成績評価基準	秀：（評点 90 点以上）到達目標を極めて高い水準で達成している場合 優：（評点 80 点～89 点）到達目標を高い水準で達成している場合 良：（評点 70 点～79 点）到達目標を一定の水準で達成している場合 可：（評点 60 点～69 点）到達目標を最低限の水準で達成している場合 不可：（評点 60 点未満）到達目標に達していない場合
教科書	初回の授業の際に受講生と相談したうえで決定
参考文献	適宜紹介
その他	携帯・スマホ等の閲覧・操作や露骨な途中退出は、絶対にしないこと